

第3期 松江市スポーツ推進計画に対する
意見募集(パブリックコメント)の結果及び意見に対する市の考え方について

1. 意見募集の結果

募集期間	令和6年12月23日(月)～令和7年1月22日(水)
資料公開場所	市ホームページ、本庁行政資料コーナー、支所地域振興課
意見提出者数	9 名
意見等項目数	11 件

2. ご意見・ご質問の概要と市の考え方について

番号	該当箇所 (ページ)	意見内容	市の考え方
1	【重要成果指標】 関連成果指標 ①成人の週1回以上のスポーツ実施率 (本編 9ページ) ①スポーツによる「ひとづくり」 【成果指標】 ①成人の週1回以上のスポーツ実施率 (本編 12ページ)	目標達成のため、市内のスポーツ施設利用料金を期間限定で割引する工夫をするべきだ。 多少なりとも、スポーツ施設を利用してスポーツを実施する人が増えていくと思う。	市営スポーツ施設の利用料金は、受益者負担の観点から 施設の維持管理や運営に必要な経費としてご負担いただいております。 今後、他の公共施設の状況等も踏まえ、適正な利用料金を検討してまいります。
2	①スポーツによる「ひとづくり」 【成果指標】 ③健康寿命(65歳平均自立期間) (本編 12ページ)	「健康寿命」は成果指標として適切ではないように思う。 スポーツ以外の要因、例えば、学校や社会で受けるストレスや自然環境の変化、日常生活(食生活や睡眠など)の影響も大きく関わる。目標値を達成した時、または達成しなかった時に、それがスポーツによる影響なのか計れないのではないかな。	ご指摘のとおり、健康寿命は、食事やストレス、疾病予防など、多くの要因の影響を受けると考えられています。 一方で、スポーツ(運動習慣)が健康にもたらす効果としては、筋量・筋肉の維持やロコモ・フレイル状態や生活習慣病の予防が挙げられ、厚生労働省が行っているスマートライフプロジェクトでも、健康寿命を伸ばす4つの柱のひとつとして「毎日プラス10分の身体活動」が掲げられています。このように、スポーツは健康寿命に影響を与える大きな要因であることから、健康寿命を成果指標として採用したものです。
3	①スポーツによる「ひとづくり」 ①ライフステージや個性・特性に応じたスポーツの推進 (1)ライフステージに応じたスポーツの推進 (本編 12ページ) (実施計画 1ページ)	ゴールデンエイジへのスポーツ指導にも力を入れてほしい。スポーツ選手として能力のある子の多くは、中高生の時期に松江や島根を離れてしまうため、総合的な支援により、松江での活躍を期待したい。 少子化や各家庭の生活の厳しさから、スポーツに関わるこどもが減少しており、「何もしていない」子が増えているように感じる。こどもたちの体力に関する二極化は顕著であり、全国区で活躍する子は、小学校の時期からスポーツに取り組んでいる。やりたい子ができる環境づくりの整備を期待する。 スポーツ少年団等の指導者の待遇を改善を図り、「スポーツをするのはただではない」という認識を醸成していくことにより、指導者のボランティア精神に依存する体制からの改善をしなければならない。	ゴールデンエイジのこどもたちにとってスポーツとの関わりは、こどもの発達段階において非常に重要な時期であると認識しています。 行政の支援の在り方としては、こどもたちが幼いころからスポーツに親しみ、スポーツを通して身体的・精神的に成長することができる環境の整備であると考えています。 第3期 松江市スポーツ推進計画 実施計画の中では、「こどものためのスポーツ見本市」の継続開催や様々な学校訪問事業の実施など、こどもたちが幼いころからスポーツに親しむことのできる機会の提供に取り組むこととしています。いずれは、日常的にスポーツに関わるこどもたちが増え、松江市全体の競技力が向上することによって、実力的に秀でたこどもたちも松江でスポーツに励み、全国でも活躍するような選手に育つのではないかと考えています。 ご意見を踏まえ、指導者の育成など、こどもたちの活発なスポーツ活動の環境整備に取り組んでまいります。

番号	該当箇所 (ページ)	意見内容	市の考え方
4	①スポーツによる「ひとづくり」 ①ライフステージや個性・特性に応じた スポーツの推進 (1)ライフステージに応じたスポーツの 推進 (本編 12ページ) (実施計画 1ページ)	現在、松江市内の中学校でソフトテニス部に在籍しているのが男女合わせておよそ500人(3年生含む)の生徒のうちクラブチームに所属しているのは20人程度である。 現状のクラブチームは実質ジュニア選手と各学校の有望選手を引き抜いて構成されたチームであり、中学校から始めた選手がクラブチームへの参入することは実質難しい。クラブ化に完全移行となった場合にジュニア選手以外の数百人の生徒を受け入れる場所が必要だが、練習場所や指導者の確保が課題となる。 現在各学校に分散していた生徒が、クラブチームに所属となる場合に、1チーム当たりの所属人数の割合が大きくなり、練習場所も限られるため、ほとんどの生徒は練習の度に保護者などの送迎が必要になる。チームに所属している全ての選手がそれだけの保護者のサポートは得られないだろう。また仲のいい友達が入部したから自分も入部した程度の気持ちで入部した選手は通うことが難しくなることから、クラブ化する事で競技人口は大幅に減少するだろう。 次に指導者の確保についてだが、現行の部活動の活動時間では、一般の会社員は就業時間となるため、定年後の高齢の指導者が行うことになるだろう。その場合、最新理論の導入や価値観の相違によるトラブルが発生することが懸念される。現役世代の方が指導者となるためには、就業時間外に指導を行うため、夕方以降の活動になることに加えて、クラブの運営にはコートの確保、選手登録、備品管理など様々な実務が発生するため、別の仕事に就きながらそれらを行うのはかなりの負担であり、それらの補償やそれに見合うだけの報酬などについても検討する必要がある。また一度に見れる人数は指導者1人当たり選手10人程度であるため、仮に500人がクラブに在籍した場合に、市内でそれだけの条件を満たしている50人の指導者を用意するのは現実的に不可能だろう。上記の理由からも人数制限が行われて競技人口の縮小に繋がっていくと思われる。 現在ソフトテニスにおいては指導者に対して特別な資格等は設けておらず、実際に競技経験の無い方が中学校の外部コーチに入ってトラブルになったという事例があった。審判を選手がすることもあるため、間違った知識を与えると試合の判定にも関わる。そのためクラブ化する場合は、指導者を各連盟の推薦者または連盟の講習を受講した者にするなど条件を課さないと、報酬欲しさに指導者をやりたがる者が発生して競技レベルの低下につながる可能性がある。 また大会運営について、現行の中体連主催の大会は平日開催が主だったが、連盟や指導者が運営を行っていく場合、土日開催が主となってくるだろう。その場合学校の振替休日などはどうなるのか？テスト期間や感染症などによる学校閉鎖期間の練習や大会参加はどうするのか？現時点でも、テスト期間中に部活所属選手は大会参加が出来ず、同じ学校でもクラブ所属選手は大会に参加しているなど、学校生活内でもトラブルが発生している。この辺りの取り決めも全体で統一しておかなければならない。 今後の課題としては指導の質を確保するため、指導者に対する補償や指導者に対する講習を今後実施して頂きたい。 現時点で、これらの取り決めが決められる前に作成したクラブについては、クラブ間での選手の取り合いであったり、市町村を超えての選手の引き抜きなどのトラブルが発生しており、勝利至上主義が先行してしまっている感があり、地域移行の趣旨と相違があるように感じる。そのため、中体連や各連盟も対応を検討しているが、同様の問題が他競技でも発生してくると思うので、各連盟などと協力して進めて頂きたい。	中学校部活動の地域移行の進め方については、ご指摘のとおり、指導者の確保や受け入れ体制の整備、活動場所の在り方など様々な課題があり、教育委員会が設置する松江市中学校部活動の在り方検討委員会において委員の皆様の意見をいただきながら、教育委員会と文化スポーツ部が連携して検討しているところです。 いただいたご意見は関係各課と共有して今後の検討に生かしてまいります。

番号	該当箇所 (ページ)	意見内容	市の考え方
5	① スポーツによる「ひとづくり」 ② 幅広い志向に応じたスポーツの推進 (1)健康づくりやレクリエーションのためのスポーツの推進 (本編 12ページ) (実施計画 1ページ)	スポーツを行うには、医学的な学びも必要である。こどもだけでなく、親や年配の方々も学ぶことができるいつまでも動ける体づくり、けが防止等についてのイベントや教室を開催してほしい。	ご指摘のとおり、スポーツを推進する上で、けがをせず継続的に体づくりに励むための医学的知見は大切な要素であると認識しております。 いただいたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。
6	② スポーツによる「つながりづくり」 ① スポーツによる地域内交流の推進 (1)各地域におけるスポーツ活動の活性化 (本編 13ページ) (実施計画 2ページ)	我が地区の体育行事は、コロナ禍を受け、一段と参加者が減少傾向にあり、特に地域対抗の競技で参加者が減っている。体協役員は若手の加入が少なく、高齢化の一途を辿っている。このままでは、我が地区でのスポーツ活動は衰退していく有り様である。 他の地区での取り組み事例、県内の市町村での成功事例等を、年に1～2回程度、市主催で発表・意見交換する機会を作って欲しい。良いアイデアがあれば、我が地区内でそれを取り入れスポーツ活動の活性化をはかりたい。	各地域体育協会をはじめ、スポーツ推進に携わる組織の役員の高齢化は、本市が抱える課題のひとつであると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、地域体育協会等関係団体のご意見も伺いながら、地域におけるスポーツ活動がより活発になるような取組について検討を進めてまいります。
7	⑤ スポーツによる「どだいづくり」 ① スポーツをささえる人や組織の育成 (1)スポーツを推進するリーダーの育成・活動支援 (本編 16ページ) (実施計画 3ページ)	指導者の高齢化が顕著であり、全て70代以上が中心となって運営している。中期的な対応にも不安があり、組織の若返りは喫緊の課題である。他地区でも同じような状況だと聞いている。 以上を踏まえ、「どだいづくり」の中で、組織の若返り対応を検討できないか。	
8	② スポーツによる「つながりづくり」 ① スポーツによる地域内交流の推進 (2)スポーツによる地域間交流の推進 (本編 13ページ) (実施計画 2ページ)	継続して取り組むものとして、市民体育祭(ソフトボール、バレーボール、卓球、ニュースポーツ、地区対抗大運動会)が掲げられているが、相当以前から同じ競技種目、かつ競技人口が減っているものが多いこともあり、参加地区および参加者が減少している。ソフトボール、バレーボール、卓球、ニュースポーツ(グランゴルフ等)は、競技別の大会が市内や近隣地域で開催されており、あえて実施する意義を感じない。 また、地区対抗大運動会は、多くの地区で参加者集めに苦労しており、結局、地区の体協役員が多くの競技で参加せざるを得ず、開催目的を達成できていない。 市内全29地区を一堂に集めて地区対抗競技大会を行うのではなく、老若男女誰もが、スポーツを体験できる場、様々な体力測定ができる場(大会)を開催してはどうか。そのなかで、様々な地区の方々が集まるので交流を深める場(交流の仕掛けづくりが必要)と出来ないか。 なお、どうしても市民体育祭を開催したいのであれば、競技種目は、時代に即したもの、松江市として推進したいスポーツ等を採用すべきであり、何年かごとに競技種目を見直すこととして欲しい。その際、多くの方が参加できるように、参加条件のハードルを低くすることも必要である。	市民体育祭の種目別大会や地区対抗大運動会の開催にあたっては、参加者募集などにおいて、各地区体育協会の役員の皆様大変ご尽力いただきありがとうございます。 各大会において参加者数の減少や選手の確保が難しくなっている状況については、本市としても課題として認識しております。 昨年開催した地区対抗大運動会の反省点や今回いただいたご意見も踏まえ、各地域体育協会の皆様とも相談しながら、今後の大会の在り方について検討してまいります。

番号	該当箇所 (ページ)	意見内容	市の考え方
9	④スポーツによる「しごとづくり」 ③スポーツ関連ビジネスの活性化 (2)民間スポーツクラブやスポーツ教室等のスポーツに関連するビジネスの活性化 (本編 15ページ) (実施計画 2ページ) ⑤スポーツによる「どだいづくり」 ①スポーツをささえる人や組織の育成 (1)スポーツを推進するリーダーの育成・活動支援 (本編 16ページ) (実施計画 3ページ)	スポーツをするには、お金がかかり、ボランティアによる指導・育成からビジネスとしての指導・育成の時代が変わってきている。 そのため、資格取得のための補助金やイベント開催のための補助金、ビジネスとして成立するための補助金を要望する。	ご指摘のとおり、ボランティアとして指導・育成に携わっていただいている人々の高齢化が進み、指導者の人材不足につながっていると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、指導者の育成や組織、大会の在り方について検討してまいります。
10	⑤スポーツによる「どだいづくり」 ②スポーツ施設の整備と利活用 (1)施設の整備・管理運営 (本編 16ページ) (実施計画 3ページ)	体育館の和式トイレを洋式トイレに改修してほしい。 体育館の床のたわみを修繕してほしい。	市営スポーツ施設の整備・改修については、施設の状態や利用状況等を踏まえ、計画的に行ってまいります。
11	⑤スポーツによる「どだいづくり」 ②スポーツ施設の整備と利活用 (2)施設の利活用の促進 (本編 16ページ) (実施計画 3ページ)	地元の数人で急にスポーツをしたいとき、学校や体育館が使用できないことが多い。管理が難しいと思うが、急でも使用できるような施設があると良い。	いただいたご意見を踏まえ、誰もが気軽にスポーツを楽しめるように、よりわかりやすいスポーツ施設の情報提供などスポーツ施設の利活用の促進につながる取組を検討してまいります。